

発想支援グループウェア郡元

デモ19

由井 蘭 隆也[†] 宗森 純^{††} 長澤 庸二[†]

[†]鹿児島大学工学部 ^{††}大阪大学大学院基礎工学研究科

1. はじめに

近年、ネットワークによって結合された複数の計算機を用いてグループによる知的生産活動を支援するグループウェアの研究が盛んに行われている[1]。日本においてグループによる知的生産活動を支援する方法としてはKJ法が著名であり、様々な会社、組織で用いられ新製品の開発や組織の管理などに広く適用されている。著者らは、複数の計算機を用いて分散協調型KJ法を行うことを可能とする発想支援グループウェア郡元(Groupware for a new idea generation support system)を開発し、それを学生実験に適用し評価、改良をおこなっている[2]。

2. 郡元

郡元は知的生産の技術カードシステムと、それを洗練し、衆知を集めて発想をまとめる手法であるKJ法を計算機上で模擬することによりグループの発想を一貫して支援するグループウェアである(図1)。

郡元は、3つのソフトウェアから構成されている。それらは分散協調型KJ法支援ソフト、知的生産支援システムWadaman、マルチメディアコミュニケーションツールNetGearである。分散協調型KJ法支援ソフトはコンピュータネットワーク上で分散協調型KJ法を複数の計算機で行うことを可能とする(図2)。知的生産支援システムWadamanは1960年代に梅棹忠夫により、知的生産の技術として広く紹介された京大式カードシステムを参考にして作成したシステムであり、現実の箱を模擬するなど仮想的なインターフェイスに特徴がある。Wadamanは、郡元においてKJ法に使うデータの収集、KJ法の結果の保存を可能にし、一貫したKJ法を支援するシステムの一部として位置づけている。NetGearは画像と音声によるマルチメディアコミュニケーションを実現する通信ソフトである。郡元は、TCP、UDPを使用しインターネットでも利用可能である。

郡元は以下のように比較的安価なハードウェア構成で用いられる。本学の情報棟のLANを構成するEtherNet(10Mbps)につながった複数の計算機(PowerMac(AppleComputer))を用いて分散協調型KJ法や遠隔ゼミ等を行う。画像と音声によるマルチメディアコミュニケーション機能を使うときはそれぞれの計算機に画像入力用としてモノクロデジタルCCDカメラQCAM(Connectix)、音声入力用はPlainTalkマイク(AppleComputer)を用いている。

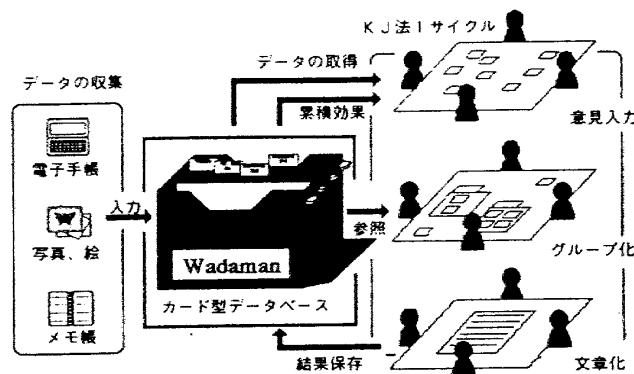


図1 発想支援グループウェア郡元のイメージ図

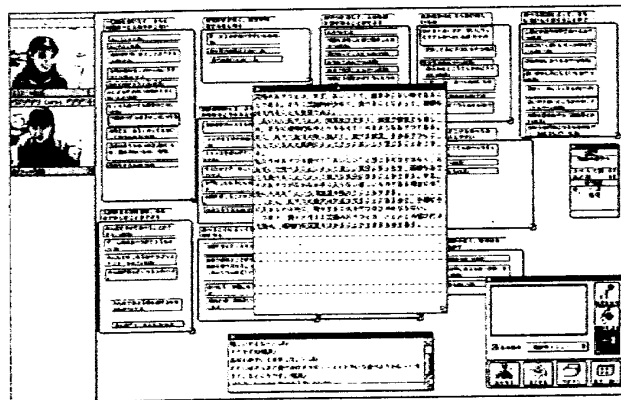


図2 郡元を用いた分散協調型KJ法実施画面

3. おわりに

今後、郡元を学生実験等に適用し、評価、改良を行っていく。

参考文献

- [1] 松下 温, 岡田謙一, 勝山恒男, 西村 孝, 山上俊彦編: bit 4月号別冊知的触発に向かう情報社会-グループウェア維新-, 共立出版, 東京(1994).
- [2] 由井蘭隆也, 宗森 純, 長澤庸二: 学生実験用発想支援グループウェアの実施に及ぼすマルチメディアコミュニケーションの影響, 電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J80-D-II, no.4, pp.884-891(1997).

A Groupware for a New Idea Generation Support System
Takaya YUIZONO[†], Jun MUNEMORI^{††}, Yoji NAGASAWA[†]

[†]Kagoshima University, Kagoshima-shi, 890 Japan

^{††}Osaka University, Toyonaka-shi, 560 Japan